

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0873000053
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館いなり
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市下稲吉1668 (電話)0299-37-7801

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年7月22日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 13 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 14 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15 人	

(2)建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは果実畑の点在する住宅街の中に位置する。職員用の託児所が併設されているため、利用者はその子供たちとの関わりを楽しみにしている。また、子供たちの面倒を見ている利用者の表情は優しく、温かいものであったのが印象的であった。職員は、何事もあいさつから始まることを大切にしており、笑顔で明るく接している姿があった。管理者はその職員と共に地域や家族とのつながりに重きを置き、日々のケアに取り組んでいる。今後も更なるケアの向上を目指しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を提示してある。主な改善課題とされた感染症マニュアルの整備や食事・水分摂取の確認表の整備を行い、活用している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で目を通し、取り組んでおり各ユニットのリーダーがまとめをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの概要から行事予定、行政に確認したいことなどを主に話し合っている。家族からの要望や地域の声を確認する機会としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱をそれぞれのユニットごとに設置している。また、家族からの要望を確認する専用のノートを用意している利用者もあり、すぐに要望に応えられるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際に挨拶をしたり日常的にホームからの働きかけを積極的に行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営規定基本理念「決め事十則」を掲げている。	<input type="radio"/>	現在、地域との連携をさらに密なものにしたいと考えている。今後は職員間での話し合いも持ち、事業所独自の理念を作り上げていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の中にもある「あいさつ」を最も大切にし、日々のケアを行っている。また、月に1度のスタッフミーティングでケアの取り組みと理念の確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校の行事参加への働きかけや、近隣住民との関わりを積極的に行っている。ホーム内の新聞などを作成し配布をしているが、今後さらにつながりを深めたいと考えている。	<input type="radio"/>	地区長・民生委員との連携を図りながら、地域との関わりをどのように進めていったらよいか話し合い、ホーム側も意向や要望を伝えられる環境づくりが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は自己評価を行い改善点を確認することが今後のケアの質を向上させていくことにつながると認識している。昨年の評価をもとにマニュアルの整備などを行っている。		今後は改善報告書をもとに、どのように取り組み結果どのようなになったのかを明確にすることで、より外部評価が活用されることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(偶数月)に開催しており、利用者やその家族も交えホーム内の状況報告や意見交換が行われている。		

茨城県 グループホームいっしん館いなり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が定期的に訪問している。	○	地域との関わり方や介護保険上の相談など積極的に市との関わりを持つことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度のホームだより健康状態や日々の様子などを写真を添付しながらわかりやすく報告している。また、急激な健康状態の変化については電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と共に、面会時などに意見や要望を聞くような関わりを持っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間、法人内での移動はあるが最小に抑えながら、事前に移動先の利用者とのコミュニケーションに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は充実した内容となっている。外部研修への参加は公務として行っている。	○	今後は外部研修の情報を職員が確認できるような体制をとり、また報告書の整備を行うことで、より多くの職員がより深い学びが行えるような環境作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内にある法人の事業所との関わりは密に行っている。	○	同市内の事業所が連携することで、困難事例の解決や職員間の交流が行われ、ケアの質の向上につながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は1週間の利用が可能な体制が取られている。コミュニケーションを多く取り、利用者のニーズに応えられるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のならわしを教えてもらっている。また、利用者からの感謝の気持ちは職員の喜びとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話や意見を聴き、具体的な関わりの中で「その人らしさ」を見つけながらケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を取り入れ、月1回のスタッフミーティングでの情報をもとに担当の職員が個々の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のスタッフミーティングをもとに6か月に1度の見直しを行っている。その際に再アセスメントも行っている。	○	日々の記録、モニタリング用紙、スタッフミーティングの記録を介護計画と関連させた内容とすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体状況に合わせて法人内の他の施設への支援も行っている。また、今後はショートステイやデイサービスの導入も行う予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や24時間緊急対応可能な協力医療機関を確保している。また、職員の看護師に随時相談しながら健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてはターミナルケアの受け入れを行っていく方針であるが、まだ事例はなくマニュアルの整備などはされていない。	○	全職員、利用者とその家族、医療機関との十分な協議を行いながらホームとしてどこまでの関わりが行えるのかを確認しながらケアマニュアルの整備をしていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや名前の呼び方にも注意しており、情報の管理も鍵付きの書棚に管理している。しかし、個人情報の利用目的の書式が整備されていない。	○	個人情報の取り扱いについての書式を整備し、利用目的を明確にすることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者のペースを把握し、日々の過ごし方を確認しながらケア提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事作り、片付けと「食べることだけ」を楽しみとしない取り組みがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた時間やペースでの入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の今ある力を見ながら、自然に役割が持てるように配慮されている。また、それが楽しみにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やドライブ、月に1度は外食などを楽しんでいる。また、利用者の希望も取り入れながら外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ施錠しており、夜勤者が確認リストを用いて行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回行われている。地震想定については行われていない。	○	避難場所の確認、救急用具・非常食などの備品の整備を行い、地域との連携を図りながら地震想定での訓練を行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を用いて摂取状況を確認している。また、法人の栄養士がホームの訪問を行い栄養相談を行っている。		献立の確認を栄養士に行ってもらうことで今後よりバランスの取れた食事提供に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、畳のスペースがありくつろげる空間づくりに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切に使ってきた思い出の家具などが置かれた居室で過ごす利用者の姿があった。		